

平成 26 年 4 月 24 日

ところ会員 各位

## ところ会 5 月行事案内

平成 26 年度、第 5 回テーマ：谷根千地区をめぐる

平成 26 年のところ会の 5 月の行事は都内の谷中・根津・千駄木地区の史跡及び観光スポットめぐりを計画しました。下記の通りご案内します。

参加不参加の返答は 5 月 1 日までに連絡下さい。

記

■日時・集合時間：5 月 16 日(金) 8:50 小雨決行、荒天時は中止とします。

■集合場所：西武池袋線所沢駅、池袋線特急券売り場前

■コース：

所沢駅 9:00 出発⇒池袋（山手線）⇒青雲寺（花見寺）⇒修性院（花見寺）  
⇒日暮里富士見坂⇒諏方神社⇒浄光寺（雪見寺）⇒養福寺⇒延命院⇒本行寺（月見寺）  
⇒天王寺⇒天王寺五重塔跡⇒横山大観墓⇒徳川慶喜墓⇒観音寺築地堀⇒  
観音寺⇒台東区立朝倉彫塑館（11:30）⇒谷中“すぎうら”（昼食）（12:00～13:00）  
⇒夕やけだんだん⇒谷中銀座⇒岡倉天心記念公園⇒大圓寺（大円寺）  
⇒全生庵（山岡鉄舟墓、三遊亭円朝墓）⇒大名時計博物館⇒根津神社（14:30～）  
⇒根津駅（地下鉄千代田線）・西日暮里経由池袋駅⇒所沢駅、解散

■参加費用：¥1,300（昼食代、税抜）

拝観料金：台東区立朝倉彫塑館(¥500)、大名時計博物館(¥300)は自由拝観とし各自負担願います。

※：台東区立朝倉彫塑館は昼食前の 11:30 一時解散し、12:00 迄拝観又は自由行動とし、12:00 迄に台東区立朝倉彫塑館前に集合願います。

※：大名時計博物館の拝観も自由とし、拝観を希望しない方は直接根津神社へ、拝観希望の方は拝観料金を負担し、拝観願います。拝観時間は 15 分とします。根津神社での集合時間は当日指示いたします。

■訪問先一覧

- |            |               |
|------------|---------------|
| 1.青雲寺（花見寺） | 2.修性院（花見寺）    |
| 3.日暮里富士見坂  | 4.諏方神社(諏訪神社)  |
| 5.浄光寺（雪見寺） | 6.延命院のシイ      |
| 7.本行寺（月見寺） | 8.天王寺・天王寺五重塔跡 |

8.横山大観墓

10.観音寺築地堀・観音寺

12.谷中“すぎうら”（昼食）

14.谷中銀座

16.大圓寺(大円寺)

18.大名時計博物館

9.徳川慶喜墓

11.台東区立朝倉彫塑館

13.夕やけだんだん

15.岡倉天心記念公園

17.全生庵(山岡鉄舟墓、三遊亭円朝墓)

18.根津神社

■雪月花・文人墨客が愛した町で知性のパワーをもらおう！

「谷中」と聞いて、思い浮かべるものはなんでしょう？谷中霊園、「谷根千」、七福神、谷中銀座。どこかほのぼのとした、懐かしいような風情がただようエリアというイメージですね。今回はその谷中の、古刹や風景を中心にご案内します。

谷中は上野地区の近く。江戸末期、上野では「上野戦争」という旧幕側 vs 新政府の激突が繰り広げられました。谷中もその被害に遭っています。ただ、その後の関東大震災、太平洋戦争の空襲の被害には遭わず、明治の風情を今に伝えていきます。森鷗外、夏目漱石、幸田露伴といった明治の文人達が、自身の作品の舞台にも選ぶほど愛した土地、それが谷中です。なかでも幸田露伴は後半生を谷中天王寺町で過ごし、代表作「五重塔」を書いたのも、谷中でした。彼のほか、歌人・北原白秋も谷中の人でした。

谷中にはお寺がたくさんあります。それは、1657 年の「明暦の大火」、いわゆる「振袖火事」で焼失した寺院が多く谷中へ引っ越してきたことで、本格的に「寺町」が形成されました。

また、谷中は「雪月花」の景勝の地として名高い浄光寺「雪見寺」、本行寺「月見寺」、青雲寺・修性院「花見寺」があります。その雪月花の寺からスタートします。

■見学場所簡単ガイド

◆ 青雲寺（花見寺）、谷中七福神：恵比寿）

最初のお寺「浄居山清雲寺」は臨済宗の寺で、宝暦年間(1751～64)堀田相模守正亮の中興と伝えられ、門の右には「花見寺」と彫られた石碑があります。

江戸時代の中頃より「日暮しの里」と呼ばれ庶民に親しまれてきたこの地は、四季折々谷の花を親しむ人々で賑わった。そのため清雲寺は修性院とともに花見寺ともいわれ、安藤広重「江戸百景」にも描かれています。

現在、谷中七福神の中の「恵比寿神」が祀られています。また、境内には戯曲師・滝沢馬琴の筆塚碑・硯塚の碑などがあります。

#### ◆ 修性院（花見寺、谷中七福神：布袋尊）

日蓮宗の蓮啓山修性院は、天正元年（1573）豊島郡田中村に創建、寛文3年（1663）当地に移転したと伝えられます。境内に仮山を造り多数の花樹を植えた景勝地として「花見寺」とも称されていました。谷中七福神の「布袋尊」が祀られています。こっくりと笑った、愛らしい布袋様です。

#### ◆ 日暮里富士見坂

この坂から富士山が見えるため「関東の富士見百景」に選定されていますがビルが建ち富士山の一部が見えなくなったことでかえって有名になりました。

この辺り、西日暮里公園のある道灌山（どうかんやま）から諏訪台にかけて、眺望のすぐれた名所でした。現在も坂上の諏方神社境内奥には見晴らし台があり、電車ウォッチングのスポットとして知られています。

夕焼け空を背景にシルエット富士が望めたときは最高の気分。山頂へ夕日の沈む「ダイヤモンド富士」が見える日（11月中旬と1月末）は坂上に多くの人が集まります。今は、季節的に富士山を望むのは難しそうですが、現地に置かれた写真で見てください。

#### ◆ 諏方神社（諏訪神社）

諏方神社は、元久2年（1202）豊島左衛門尉経泰が信州諏訪神社より勧請して創建したといわれます。江戸期には慶安2年（1649）には社領5石の御朱印状を拝領、日暮里（新堀）村・谷中町の総鎮守として崇敬を集めただけでなく、日暮の里（ひぐらしの里）として江戸有数の景勝地としても有名だったと言います。

#### ◆ 浄光寺（雪見寺）

真言宗豊山派の浄光寺は法輪山法幢院と称し、江戸時代までは諏訪神社の別当寺であった。浄光寺は見晴らしの良い高台にある境内からの雪見が有名となって別名「雪見寺」と呼ばれました。山門を潜って左手高さ1丈（約3m）の「銅造地藏菩薩像」がある。元禄4年（1691）に空無上人の勧化（かんげ：信者に寄付を勧めて集めること）により江戸東部六ヶ所に開眼され、江戸六地藏と呼ばれた。山門の右には「六地藏三番目」と彫られた石碑が立っている。

他に文化6年（1809）に再建した地藏菩薩立像があります。また、元文2年（1737）以降には將軍鷹狩りの際の御膳所となっていました。

- 庚申塔が七基あり、細かい彫刻が綺麗に見えます。手が8本の物や卍を持っている物、腰に獅喰（しかみ：獅子の頭部を模様化した物）がある物もある。

#### ※江戸六地藏

1700年代始め（宝永～享保）江戸の出入口6箇所には丈六の地藏菩薩坐像を造立した。東海道、奥州街道、甲州街道、旧中山道、水戸街道、千葉街道に建てられたが、ここ浄光寺は旧中山道。

#### ◆ 養福寺

養福寺は真言宗豊山派の寺院で、江戸初期元和6年（1620）の開山、木食義高の中興と伝えられており、江戸時代初期に活躍した俳人西山宗因の「梅翁花樽碑」をはじめとする談林派歴代の句碑、柏木如亭の碑、自堕落先生の墓などがあります。

赤くそびえる仁王門は、宝永年間（1704から1711）の建立と伝え、門の裏側には広目天と多聞天の二天王像が安置されています。

入口に「西国貳拾七番 播磨國書寫寺寫」という碑がたつ。西国三十三か寺の写しだろうか？

ここの庚申塔は右手で首を持っているように見えます。

#### ◆ 延命院のシイ（東京都天然記念物）

延命院のシイは、天保7年（1836）の「江戸名所図会」の「日暮里惣図」に本樹の全容が描かれていて、当時から地域の人々に親しまれた老樹であることが分かる。かつては幹周り5.5m（平成9年調べ）の巨樹だったが、平成14年（2002）5月に幹内部の腐朽が原因で南側の大枝が崩落し、安全のため現在の樹形に保っている。



2000年9月  
山本撮影

#### ◆ 本行寺（月見寺）

本行寺は、大永6年（1526）、江戸城内平河口に建立され、神田・谷中を経て、宝永6年（1709）、現在地に移転した。景勝の地であったことから通称「月見寺」ともよばれていた。二十世の日桓上人（俳号一瓢）は多くの俳人たちと交遊があり、小林一茶はしばしば当寺を訪れ、「青い田の、露をさかなや、ひとり酒」などの句を詠んでいる。

儒学者市河寛斎・書家米庵父子や、幕末・維新期に活躍した永井尚志などの墓がある。戦国時代に太田道灌が斥候台を築いたと伝える道灌物見塚があったが、現在は寛延3年（1750）建碑の道灌丘碑のみ残る。

#### ◆ 天王寺（谷中七福神：毘沙門天）

谷中霊園の入口に谷中七福神の一つ毘沙門天を祀る「護国山尊重院天王寺」があります。門を潜ると、お釈迦様の身長と同じに作られたといわれる1丈6尺（約4m85cm）の**大仏様**、「銅造釈迦如来坐像」が目に入ります。護国山天王寺は、もと長燿山感應寺尊重院という日蓮宗寺院として、鎌倉時代に創建され、9ヵ院を擁する本寺でしたが、不受不施派\*1に対する禁令により天台宗に改宗しました。享保年間には富籤興行が許可されたことで賑い、**湯島天神**、**目黒不動**とともに江戸の**三富**と称されるほどに賑わっていましたが、**上野戦争**では、当寺に**彰義隊**の分営が置かれたことから、**本坊**と**五重塔**を残して堂宇を全て焼失しました。**上野王子駒込辺三十三ヶ所観音霊場9番札所**です。

\*1 不受不施派：日蓮の教義である法華経を信仰しない者から布施を受けたり、法施などをしないという不受不施義を守ろうと、かつて存在した宗派。

#### ◆ 天王寺五重塔跡

最初の五重塔は、寛永21年（1,644）に建立されたが、130年ほど後の明和9年（1771）目黒行人坂の大火で焼失した。19年後の寛政3年（1791）に近江国棟梁八田清兵衛ら48人によって再建された五重塔は**幸田露伴の小説「五重塔」のモデル**としても知られている。総檜造りで高さ十一丈二尺八寸（34.18m）は関東で一番高い塔であった。明治41年東京市に寄贈され、谷中のランドマークになっていたが、昭和32年7月**放火心中事件**により焼失した。

現存するのは礎石のみだが、**在りし日の五重塔**と放火によりまさに炎上中の**五重塔**の**写真**が見られる。

#### ◆ 横山大観の墓

近代日本画壇の巨匠であり、明治時代後半期岡倉天心、菱田春草らと「朦朧体」と呼ばれる西洋画の画法を取り入れ線描を抑えた独特の没線描法の絵画表現を確立した。

帝国美術院会員。第1回文化勲章受章。死後、正三位勲一等旭日大綬章を追贈された。脳は、今も東京大学医学部に保管されている。

#### ◆ 徳川慶喜の墓

江戸幕府第15代征夷大将軍。大政奉還や新政府軍への無血開城など行った江戸幕府最後の将軍。1837年水戸藩主徳川斎昭の七男として生まれ、1847年一橋家を継ぐ。1866年第15代将軍となる。日本最高権力者として幕府建て直しに奔走するが、新しい時代の波には勝てず、鎌倉幕府以来続いてきた武家政治を終焉させた。江戸開城後、身柄を水戸に移され、藩校弘通館の一室

にて謹慎。1969年戊辰戦争の終結を受け謹慎を解除。非常に多趣味な慶喜はその後、趣味の世界に生きた。1902年に公爵受爵。35年ぶりに貴族院議員として政治に携わる。1913年感冒にて死去。享年77歳で波乱多き人生の幕を閉じた。**明治天皇行在所の斎藤家には徳川慶喜の書**が掛けられている。

#### ◆ 観音寺

**赤穂浪士ゆかりの寺**で、赤穂浪士討入りに名を連ねた近松勘六行重と奥田貞右衛門行高が当寺第6世朝山大和尚の兄弟であったことから、赤穂浪士討入りの会合にもよく使われた。本堂右側にある**宝篋印塔**は四十七士慰霊塔として古くから伝えられる。

新義真言宗寺院の観音寺は、蓮葉山妙智院と号します。観音寺は、慶長年間（1596-1615）神田北寺町に起立し、延宝8年（1680）当地へ移転した。

境内には**御府内第四十二番 八十八箇所観音寺 伊豫国仏木寺移シ**という石碑がある。なるほど四国に行かなくても良いわけだ。それでもかなり大変そうですが。

#### ● 観音寺築地塀

観音寺境内南側路地の沿に建てられた築地塀は谷中の象徴的存在。瓦と土を交互に積み重ねて作った土塀に屋根瓦をふいたもので幕末の頃に造られたものといわれる。こちらも台東区の「**まちかど賞**」を受賞しています。

**築地**（つじ）：柱を立て、板を芯として両側を土で塗り固め、屋根を瓦で葺いた塀。

#### ◆ 台東区立朝倉彫塑館（入館料500円）

朝倉彫塑館は、彫塑家朝倉文夫（1883～1964）が住居兼アトリエとして自ら設計・監督し8回におよぶ増改築を行っており国の有形文化財に登録されています。

残念：月、金はお休み

● **朝倉文夫**（明治16年～昭和39年）明治から昭和の彫刻家（彫塑家）で「**東洋のロダン**」とも称された。娘は舞台美術家・画家の朝倉摂（摂子）と、彫刻家の朝倉響子。

彫塑館には早稲田でお馴染みの大隈重信の像があります。彫塑館には作品の他、趣味で集めた物も多く、建物も見所です。500円払うのなら見なくても良いかな？と書いていたのですが、一見の価値はありますよ  
(山本)

## ◆ 谷中“すぎうら”（昼食：税抜き 1300 円）

### ◆ タやけだんだん

タやけだんだんは日暮里駅方面から谷中銀座に下る坂（階段）。御殿坂の延長線上にあたる。階段上から谷中銀座を見下ろす風景は谷中関連の雑誌や番組にしばしば登場する有名なもので、夕焼けの絶景スポットにもなっている。階段の下には「谷中ぎんざ」と書かれたゲートがある。

また、階段には野良猫・飼い猫を問わず、沢山の猫が集まっているので、「タやけにゃんにゃん」と呼ばれることもある。

### ● 地名の由来

夕焼けが美しいことと、下町情緒が感じられる名前として、森まゆみが命名した。

### ◆ 谷中銀座

谷中銀座は、谷中 3 丁目と西日暮里 3 丁目にまたがる商店街で、江戸文化の香り高い谷中地区の商業の中心として景観を大切にしている。決して大きな商店街ではなく日本のどこにでもある商店街で、下町の台所の役目もする。

現在はその特徴を生かした戦略がメディアに取り上げられて日本全国はもとより世界各地からも観光にこられている。

### ◆ 岡倉天心記念公園

岡倉天心記念公園は、横山大観らと日本美術院を創設し、日本の伝統美術の復興に努力した、近代日本美術の先覚者・岡倉天心の邸宅兼日本美術院跡に台東区が作った公園で、昭和 42 年（1967）に開園しました。約 700 平方 m の小さな公園です。園内には岡倉天心を記念した六角堂が建ち、堂内には平櫛田中（ひらくしでんちゅう）作の天心坐像が安置されています。

### ◆ 大円寺（大圓寺）

日蓮宗寺院の高光大円寺の創建年代等是不詳、上野清水門脇から当地へ移転したといわれます。境内には笹川臨風の「お仙と春信の顕彰碑」、永井荷風の「笠森阿仙之碑」があります。

### ● 大円寺の笠森お仙と鈴木春信の碑

お仙は、笠森稲荷神社前の茶屋「鍵屋」の看板娘で、江戸の三美人の一人。絵師鈴木春信はその姿を、当時新しい様式である多色刷り版画「錦絵」に描いた。お仙に関係の深い笠森稲荷を合祀している大円寺に、大正 8 年その碑が建てられた。「笠森阿仙の碑」は小説家永井荷風の撰、「錦絵開祖鈴木春信

碑」は、文学博士笹川臨風が撰。

- 笠森は瘡守（かさもり）と音が同じなので、皮膚病のみならず梅毒に至るまで霊験があるとされた。なお、入り口の門柱には瘡守稲荷と彫ってあった。

### ◆ 全生庵

全生庵といえば、「幽霊画」が有名で、三遊亭円朝師匠の縁故としても有名ですが、「幕末三舟」の一人、剣豪でなおかつ江戸開城の功労者だった「山岡鉄舟」のゆかりの寺でもあります。鉄舟が明治維新の際に国事に殉じた人々を弔うために明治 16 年に建立しました。（[海舟、鉄舟、泥舟の書も斎藤家にある。](#)）

### ● 全生庵の縁起（山岡鉄舟墓、三遊亭円朝墓）

臨済宗国泰寺派で、開山は越そう和尚、開基は山岡鉄舟居士である。又、居士との因縁で落語家の三遊亭円朝、国士の荒尾精、山田良政、岡田満、石油開発者の石坂周造、長谷川尚一、画家の松本楓湖、教育家の棚橋絢子の墓所があり、円朝遺愛の幽霊画 50 幅、明治、大正名筆の観音画 100 幅が所蔵されている。

### ◆ 大名時計博物館（入館料 300 円）

「大名時計」は美術工芸品として作られた日本独特の時計。陶芸家の故上口愚朗が生涯にわたり収集した江戸時代の貴重な文化遺産を長く保存するために昭和 26 年勝山藩の下屋敷跡に設立。

### ● 特色

大名時計は、江戸時代に大名お抱えの御時計師達が、長い年月をかけて手造りで製作した時計です。製作技術、機構、材質などの優れた「大名時計」は美術工芸品で世界に類のない日本独特の時計です。時刻はヨーロッパで使用された、24 時間の定時法の時刻と異なり、大名時計は不定時法を用いた時計です。不定時法とは、夜明けから日暮れまでの昼を六等分、日暮れから夜明けまでの夜を六等分した時刻です。夜明けと日暮れは季節によって時間が変わるため、昼と夜の長さが変わり、一時 [いつとき] の長さが変わる時刻です。これらの江戸時代の名時計を展示した、専門の博物館です。

### ◆ 根津神社

根津神社は今から 1,900 年余前に日本武尊が千駄木の地に創建したと伝えられる古社で、江戸時代の 1706 年に 5 代将軍綱吉が造営した権現造りの本殿、唐門、楼門、透塀などの 7 棟は国の重要文化財に指定されています。

地元に愛される根津神社は、森鷗外や夏目漱石など、文学作品にも数多く



登場しています。また、春はつつじの名所としても知られており、約 2,000 坪のつつじ苑には約 100 種 3000 株ものつつじがピンク、白、紫と華やかに咲き乱れる様はみごとです。

### ● 根津神社の概要

根津神社は、東京十社の一社となっており、明治時代には准勅祭社・府社に列格していました。創建年代は不詳ですが、文明年間(1469~1487)には太田道灌が社殿を奉じたといわれます。五代将軍綱吉の兄綱重の山手屋敷でしたが、六代将軍家宣の産土神として、綱吉により宝永3年(1706)千駄木にあった当社を移して造営され、社領500石の朱印状を拝領しました。当時造営された建造物は現存し、国指定重要文化財となっています。

### ● 庚申塔(六基)

道の辻などに建てられたものが、明治以後、道路拡幅などのため、根津神社に納められたものである。

正面から左回りに刻まれた像、銘文を見ると、

- ①青面金剛・猿・鶏・寛文8戊申(1668)・駒込村・施主15名
- ②観音像・庚申供養・施主12名
- ③日月瑞雲・青面金剛・鬼・鶏・元禄五壬申(1693)施主26名
- ④日月・青面金剛・猿・延宝8庚申(1680)願主1名
- ⑤梵字・庚申供養・寛永9年壬申(1633)都鳥庚馬米村・施主7名
- ⑥日月・青面金剛・鬼・猿・駒込千駄木町・施主10名 宝永6己丑(1709)

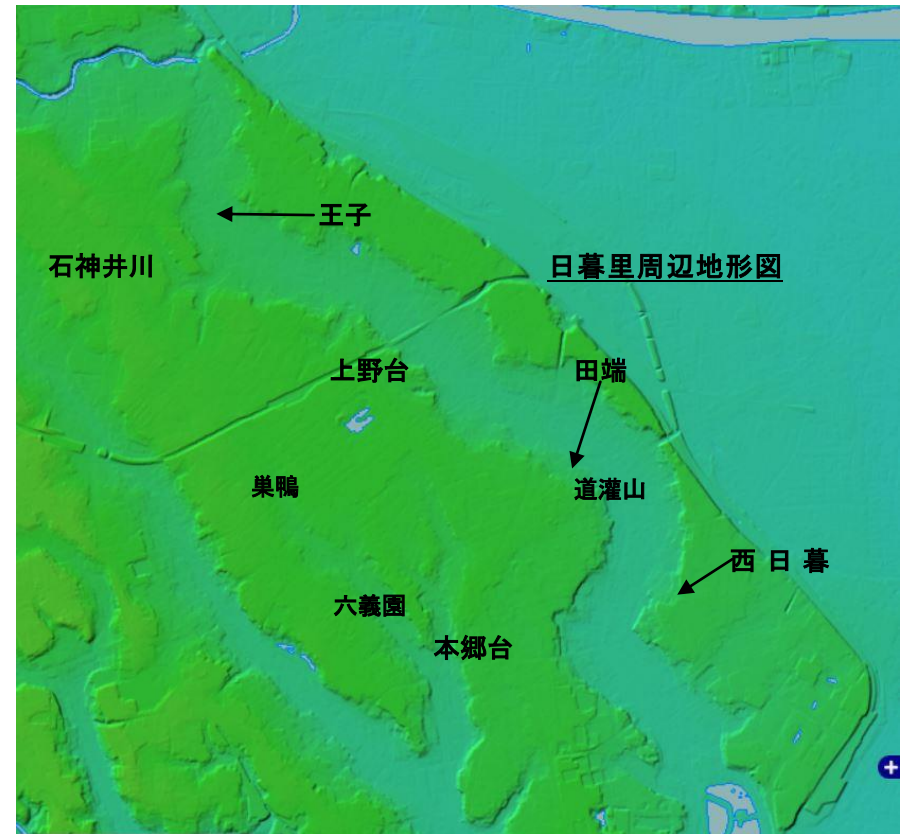
豊島駒込村か?

この中で、⑤の庚申塔は、寛永9年(1632)の建立で、区内の現存のものでは最も古い。都内で一番古いのは、足立区花畑にある元和5年(1624)のものがある。青面金剛は、病魔・悪魔を払う庚申信仰の本尊として祀られる。猿は庚申の神の使いとされ、見ざる・言わざる・聞かざるの三猿は、そのようなつつしみ深い生活をすれば、神の恵みを受けられるとされた。庚申信仰は、中国の道教から生まれ、60日ごとにめぐる庚申(かのえさる)の夜は、人が眠ると、三尸の虫がその人の体からぬけて天に昇り、天帝にその人の罪を告げて命を縮めると説かれた。これが仏教と融合してわが国に渡り、古来の天つ神を祀るおこもりの習慣と結びついた。江戸時代に、特に盛んになった民間信仰で、庚申の夜は講の当番の家に集り、般若心経を唱え、和やかな話合いで一夜を過ごした。また、祭神も猿田彦神、塞の大神=道祖神であるとの説もある。

### ● 乙女稻荷神社: 御祭神は倉稲魂命。社殿両側には奉納された鳥居が立ち並ぶ。

### ■ 地理・地形

日暮里、谷中からは富士見坂や谷中銀座など皆な西に向かって下り坂になって



いる。では、なぜこの様になっているのだろうか。花小金井を源流とする石神井川は王子から西に行き隅田川に注いでいる。次の地形図を見て頂きたい、王子から南に向かって上野台と本郷台に挟まれた低地がある。昔、石神井川はここを通って不忍池の方に向かっていたのである。(川が変わった時期と治水工事なのか自然なのかは諸説あり) そのため台地が大きく削られたため、日暮里・谷中からは西に向かって下り坂になっているのである。山手線の外側も低地が続いているが、こちらは荒川・墨田川の侵食による物である。

石神井川が西に流れるようになった後、かつて石神井川だった所は上野台と本郷台の湧水を集め谷田川が流れていた。現在は暗渠になっているが付近で藍染めが行われていたところから藍染川と呼ばれた。別紙のマップに「へび道」と書いたくねくねとした道がある、これが今は暗渠になってしまった藍染川であり、一番低いところです。

上記の地図は国土地理院の「[国土電子 Web](#)」の「色別標高図」を使用しています。これを使うと狭山丘陵が古多摩川により削られて残った所だというのがよく分かります。また、柳瀬川や東川の侵食や立川断層の位置、明治時代に低湿地だった所など色々な情報が分かりますよ。(山本)